

庄・蔵本遺跡 3

— ボイラータンク地点 (1998 年度立会)・第 22・30 次調査地点 —

2018

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

庄・蔵本遺跡 3

— ボイラータンク地点 (1998 年度立会)・第 22・30 次調査地点 —

2018

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

序 文

遺跡を発掘すると、お墓が見つかることが時折あります。これに対し、皆様はどのようなイメージをお持ちでしょうか。なにやら不気味で、得体のしれないものを感じ、見たくも触れたくもないとお思いの方もいらっしゃるかもしれません。ですが、考古学者のなかには、発掘調査でこれが出てくるだけで、学問的興味を掻き立てられ、興奮する人もいます。というのも、埋葬という行為には、被葬者の生前の社会的地位・出自・性別・年齢などが投影されており、考古学ではそうした認識に立って、これを分析することで、過去の社会を復元することができると考えられているからです。また墓は、人間集団の精神世界を色濃く反映した文化の一つですので、これをもとに、過去の人びとが育んだ文化の起源を探ることもできます。墓に関する、こういった認識は、現代の私たちが葬儀に参列したときにも、感じ取ることができるはずです。

さて、このたびお届けする『庄・蔵本遺跡3』で、まず注目されるのは、こうした特性を備えた墓、あるいは墓地です。ボイラータンク地点と第22次調査地点とでは、弥生時代前期の石棺墓や土壌墓が発見されました。弥生時代前期は、徳島平野において水稻農耕が本格化した時期にあたり、これらの墓は、この時期の社会・文化を知るうえでの貴重な資料といえます。こうした資料をつぶさに分析すると、当時の社会が階層分化のみられない平等社会であったと推定されます。また、視野を遺跡の外に大きく広げてみると、そのルーツは日本列島における弥生文化の成立地である北部九州に求めることができます。そのほか、第30次調査地点では、用水路あるいは畑の畝間の可能性がある、溝状の遺構が検出されており、これはこの時期の集落景観の復元に貢献する資料といえるでしょう。また、同地点の調査にあたっては、SfM/MVSといった最新の三次元計測手法を導入し、その使用方法と効果についても検討を試みました。今後の調査でも積極的に活用していきたい思います。

最後とはなりましたが、発掘調査、整理作業、そして本書の刊行にあたって、ご協力・ご助言を賜った学内外の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後、本書が考古学研究、さらには徳島地域での文化財の保存・活用の一助となることを願ってやみません。

平成30年3月31日

徳島大学埋蔵文化財調査室長

端野晋平

例 言

1. 本書は、徳島大学埋蔵文化財調査室が1998・2007・2016年度に本学蔵本キャンパスにおいて実施したボイラータンク工事，西病棟新営その他電気設備工事，渡り廊下建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 整理作業は，中村豊（現・本学総合科学部）・端野晋平・三阪一徳（現・九州大学）・脇山佳奈（現・中国惠州学院）・岸本多美子・久米淑子・中原尚子・板東美幸・前田千夏・安山かおり・山本愛子が担当した。
3. 遺構写真の撮影は北條芳隆（現・東海大学）・中村・三阪が，遺物写真の撮影は板東が担当した。
4. 本書の執筆分担は，目次と本文中に示した通りである。
5. 本書の編集は，端野が行った。
6. 本書で使用した座標の値は，世界測地系による平面直角座標系（第IV系）に準拠した。方位は座標北，レベルは海拔標高である。
7. 土層および土製品の色調は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準拠した。
8. 弥生時代の時期区分については，前期は中村（2000・2002）の土器編年，中期以降は菅原・瀧山（2000）のそれに準拠した。

中村豊，2000. 阿波地域における弥生時代前期の土器編年. 田崎博之（編），突帯文と遠賀川. 土器持寄会論文集刊行会，松山. pp.471-497.

中村豊，2002. 縄文から弥生へ－眉山北麓遺跡群の分析から－. 徳島考古学論集刊行会（編），論集徳島の考古学. 徳島考古学論集刊行会，徳島. pp.245-258.

菅原康夫・瀧山雄一，2000. 阿波地域. 菅原康夫・梅木謙一（編），様式と編年 四国編. 木耳社，東京，pp.1-130.
9. 本書に掲載した調査記録および出土遺物は，すべて徳島大学埋蔵文化財調査室で保管している。今後，研究・教育・社会貢献の場で積極的に活用されることを期待する。

目 次

第1章 遺跡を取り巻く環境と概要	三阪 一徳・端野 晋平	1
第1節 遺跡の位置と地理的環境		1
第2節 歴史的環境		1
第3節 庄・蔵本遺跡の概要		4
第2章 ボイラータンク地点（1998年度立会）	端野 晋平	9
第1節 調査の概要		9
1. 調査に至る経緯		9
2. 調査体制		9
3. 調査地点の位置		9
第2節 調査の記録		10
1. 基本層序		10
2. 遺構と遺物		13
3. 包含層出土遺物		34
第3章 第22次調査（西病棟新営その他電気設備地点）	三阪 一徳	37
第1節 調査の概要		37
1. 調査に至る経緯		37
2. 調査体制		37
第2節 調査の記録		37
1. 縄文時代晩期後葉～弥生時代前期の時期区分		37
2. 基本層序		38
3. 第2遺構面の遺構と遺物		40
4. 第1.5遺構面・第1遺構面の遺構と遺物		42
5. 包含層出土遺物		63
6. 縄文時代晩期末～弥生時代前期の遺構とその性格		68
7. ま と め		70
第4章 第30次調査（渡り廊下建設地点）	三阪 一徳	73
第1節 調査の概要		73
1. 調査に至る経緯		73
2. 調査体制		73
3. 調査の経過		73

第2節	調査の記録	77
1.	基本層序	77
2.	第3遺構面の遺構	77
3.	第1・2遺構面の遺構	81
4.	包含層出土遺物	83
第3節	溝状遺構の機能	84
第4節	SfM/MVSによる遺跡の三次元計測とオルソ画像の作成	85
1.	目的	85
2.	資料と方法	86
3.	手順	86
4.	結果	88
第5節	ま と め	89
第5章	総 括	端野 晋平 91
第1節	庄・蔵本遺跡一帯における弥生時代前期墓制の検討	91
	は じ め に	91
1.	墓制の実態	91
2.	墓制の系譜	107
3.	墓からみた社会	113
第2節	調査成果のまとめ	114

挿 図 目 次

図 1-1 庄・蔵本遺跡と周辺遺跡の位置	2	図 3-5 SD03	42
図 1-2 庄・蔵本遺跡における調査地点の位置	5	図 3-6 SD03 出土遺物	42
図 2-1 作業風景	9	図 3-7 第 1.5 遺構面の遺構平面図	44
図 2-2 本調査地点の位置	10	図 3-8 第 1 遺構面の遺構平面図	44
図 2-3 調査区北壁土層断面	11	図 3-9 第 1 遺構面の完掘状況 (西から)	45
図 2-4 調査区東壁土層断面	12	図 3-10 SK01	46
図 2-5 検出遺構全体図	14	図 3-11 SK01 下層出土遺物 (1)	47
図 2-6 遺構検出状況	14	図 3-12 SK01 下層出土遺物 (2)	48
図 2-7 SX01 (1)	15	図 3-13 SK01 出土遺物	48
図 2-8 SX01 (2)	16	図 3-14 SK02 下層	50
図 2-9 SX01 (3)	17	図 3-15 SK02 下層出土遺物 (1)	51
図 2-10 SX02 (1)	18	図 3-16 SK02 下層出土遺物 (2)	52
図 2-11 SX02 (2)	19	図 3-17 SK02 下層出土遺物 (3)	53
図 2-12 SX02 (3)	20	図 3-18 SK03	56
図 2-13 SX02 出土土器	21	図 3-19 SK03 出土遺物	56
図 2-14 SX02 出土石器	22	図 3-20 SK05	57
図 2-15 SK01・SD02	23	図 3-21 SK07	58
図 2-16 SK01 (1)	24	図 3-22 SK07 出土遺物	58
図 2-17 SK01 (2)	25	図 3-23 SD02	60
図 2-18 SD02	26	図 3-24 SD02 出土遺物	60
図 2-19 SK01 出土土器	27	図 3-25 SK04	61
図 2-20 SK01 出土石器	28	図 3-26 SX01	61
図 2-21 SD02 出土土器	29	図 3-27 SD01 出土遺物	62
図 2-22 SK02	30	図 3-28 包含層 (黄褐色シルト層) 出土遺物 (1)	64
図 2-23 SD01	31	図 3-29 包含層 (黄褐色シルト層) 出土遺物 (2)	65
図 2-24 SD01 出土土器	31	図 3-30 包含層 (黄褐色シルト層～黒褐色シルト層) 出土遺物	66
図 2-25 SD03 (1)	32	図 3-31 縄文時代晩期末～弥生時代前期の主要遺構	68
図 2-26 SD03 (2)	33	図 3-32 縄文時代晩期末～弥生時代前期の主要遺構とその時 期	68
図 2-27 SD03 出土土器	33	図 4-1 A 区北壁・東壁の土層断面図	75
図 2-28 包含層出土土器	34	図 4-2 B 区西壁の土層断面図 (上) とオルソ画像 (下)	75
図 2-29 包含層出土石器	35	図 4-3 B 区北壁・東壁土層断面図 (上) と北壁 オルソ画像 (下)	76
図 3-1 調査風景 (東から)	37	図 4-4 第 3 遺構面の遺構平面図	78
図 3-2 東壁・南壁の土層断面	39		
図 3-3 第 2 遺構面の遺構平面図	41		
図 3-4 第 2 遺構面の完掘状況 (西から)	41		

図 4-5	第 3 遺構面の遺構断面図	78	図 5-8	各属性と時期との関係	101
図 4-6	B 区第 3 遺構面の遺構検出写真 (東より)	79	図 5-9	石を用いた施設と遺物の種類の相関状況	101
図 4-7	SD302 検出状況と西壁土層断面の写真 (東より)	79	図 5-10	墓域と遺物の種類の相関状況	101
図 4-8	B 区第 3 遺構面のオルソ画像	80	図 5-11	墓壇底の規模	103
図 4-9	第 2・1 遺構面の遺構平面図	82	図 5-12	新町遺跡における墓壇底の規模と被葬者の年齢・性別	103
図 4-10	第 2・1 遺構面の遺構断面図	82	図 5-13	墓壇底の規模と石を用いた施設の相関状況	104
図 4-11	遺物実測図	83	図 5-14	墓壇底の規模と遺物の種類の相関状況	104
図 4-12	弥生時代前期前葉～中葉の遺構	84	図 5-15	庄・蔵本遺跡一帯における弥生時代前期の甕棺墓	105
図 5-1	弥生時代前期前葉～中葉における庄・蔵本集落一帯の様相	92	図 5-16	虎灘洞遺跡の石棺・木棺	108
図 5-2	庄・蔵本遺跡第 6 次調査地点	93	図 5-17	北部九州における縄文時代晩期後葉～弥生時代前期の墓制	109
図 5-3	南蔵本遺跡住宅開発工事地点	93	図 5-18	北部九州における弥生時代開始前後の土器編年	111
図 5-4	南蔵本遺跡県立中央病院地点	94	図 5-19	庄・蔵本遺跡一帯最古の弥生土器	112
図 5-5	庄・蔵本遺跡 1998 年度立会地点と第 22 次調査地点	95	図 5-20	大形壺の形態比較	112
図 5-6	墓壇の主軸方位	95	図 5-21	集落と出自集団	113
図 5-7	庄・蔵本遺跡第 6 次調査地点における石棺墓・配石墓・土壇墓	97			

表 目 次

表 1-1	庄・蔵本遺跡発掘調査一覧	6	表 5-1	石棺墓・配石墓・土壇墓の計測的属性一覧	98
表 2-1	SK01 出土土器一覧	29	表 5-2	石棺墓・配石墓・土壇墓の非計測的属性一覧 (1)	99
表 2-2	SK01 出土石器一覧	29	表 5-3	石棺墓・配石墓・土壇墓の非計測的属性一覧 (2)	100
表 3-1	徳島における縄文時代晩期から弥生時代前期の時期区分	38	表 5-4	甕棺墓の計測的属性一覧	106
			表 5-5	甕棺墓の非計測的属性一覧	106

図 版 目 次

図版 1	ボイラータンク地点出土遺物 (1)	117	図版 6	22 次調査地点出土遺物 (3)	122
図版 2	ボイラータンク地点出土遺物 (2)	118	図版 7	22 次調査地点出土遺物 (4)	123
図版 3	ボイラータンク地点出土遺物 (3)	119	図版 8	22 次調査地点出土遺物 (5)	124
図版 4	22 次調査地点出土遺物 (1)	120	図版 9	22 次調査地点出土遺物 (6)	125
図版 5	22 次調査地点出土遺物 (2)	121			